

青少年を対象とした喫煙防止教育プログラム開発のための基礎的研究  
—小学生を対象とした喫煙の意識、実態調査—

中村 正和,\* 川畑 徹朗,\*\* 日山 興彦,\*\*\* 大島 明\*

要約：昭和63年9月に大阪府下のS市内の公立小学校21校の児童15,216人を対象に、喫煙に関する知識、態度、行動などについて質問紙法による調査を行ない、以下の結果を得た。喫煙経験者の割合は、男子児童では3年生14.3%、4年生13.8%、5年生13.9%、6年生19.2%、女子児童では各々7.3%、6.3%、5.3%、6.6%であった。また、最近喫煙している者の割合は、男子児童では5年生1.2%、6年生1.7%、女子児童では各々0.8%、1.1%であった。小学5-6年生を対象に、児童の喫煙行動と喫煙に関する知識、態度、家族の喫煙状況との関連について調べたところ、喫煙経験を有する児童や最近喫煙している児童では、そうでない児童に比べて、1)喫煙の健康影響に対する認識が低い、2)たばこに対して関心が高く、たばこに対してカッコいいというイメージを持っている、3)大人の喫煙に対して寛容的な態度を示す、4)家族に喫煙者がいる割合が高い、という傾向が男女にほぼ共通してみられた。

見出し語：青少年、喫煙、実態調査、喫煙防止教育

研究方法：昭和63年9月に大阪府S市内の公立小学校21校の児童15,216人を対象に、アンケート調査を実施した。調査は、担任の教師の指導の下で、授業時間等を利用して、各教室で自記式質問紙法により実施した。主な調査項目は、1)喫煙の健康影響に関する知識、2)たばこに対する関心、3)たばこのイメージ（小学5-6年生を対象）、4)大人の喫煙に対する態度、5)喫煙経験（小学3-6年生を対象）、6)最近の喫煙状況（小学5-6年生を対象）、7)家族の喫煙状況である。

アンケートの有効回収数は14,632人で、回収率は95.9%であった。なお、対象小学校は、大阪市の近郊の住宅地域にあり、家庭の社会経済水準は大阪府の平均水準を上回ると考えられる。

結果：

(1) 喫煙に関する知識と態度

表1に喫煙に対する知識と態度に関する項目の集計結果を示した。

1) 喫煙の健康影響に関する知識

「たばこをすうと元気になると思いますか」

\* (財)大阪がん予防検診センター 調査部

\*\* 神戸大学教育学部教育衛生学教室

\*\*\* 大阪府立成人病センター 調査部

の質問に対して「いいえ」と答えた者の割合は、全学年を通して高く、全体で男96.4%、女98.3%で、女子児童の方が少し高かった。学年別にみると、男女とも学年があがるほど割合が少しではあるが高くなる傾向がみられた。

#### 2) たばこに対する関心

「大人になったらたばこをすいたいと思いますか」の質問に対して、「はい」と答えた者の割合は、全学年の男17.1%、女3.4%で、男子児童の方が5.0倍高かった。学年別にみると、男女とも低学年の児童ほど同割合が高い傾向にみられた。

#### 3) たばこのイメージ

「たばこをすうことはカッコいいと思いますか」の質問（小学校5、6年生を対象）に対して、「はい」と答えた者の割合は、小学校5-6年生全体で、男12.0%、女3.9%で、男子児童の方が3.1倍高かった。5年生と6年生で同割合を比較すると、著差はなかったものの、男女とも6年生の方が同割合が少し高い傾向がみられた。

#### 4) 大人の喫煙に対する態度

「大人がそばでたばこをすったらいやだと思いますか」の質問に対して「はい」と答えた者の割合は、全学年を通して高く、全体で男78.2%、女85.8%で、女子児童の方が少し高かった。学年別にみると男女とも学年があがるほど同割合が少し高くなる傾向がみられた。

#### (2) 喫煙行動

表2に喫煙行動に関する項目の集計結果を示した。

##### 1) 喫煙経験

「今までにたばこを一口でもすったことがありますか」の質問（小学3-6年生を対象）に対して「はい」と答えた者の割合は、小学3-6年生全体で男15.4%、女6.3%で、男子児童の方が約2.4倍高かった。学年別にみると、男では3年生14.3%、4年生13.8%、5年生13.9%、6年生19.2%と、小学6年生で同割合が高かった。一方女では、各々7.3%、6.3%、5.

3%、6.6%と、学年間の差は明らかでなかった。

##### 2) 最近の喫煙状況

「ここ1カ月のあいだに、1本以上たばこをすったことがありますか」の質問（小学5-6年生を対象）に対して「はい」と答えた者の割合は、小学5-6年生全体で男1.5%、女0.9%で、男子児童の方が約1.7倍高かった。5年生と6年生で同割合を比較すると、男では5年生1.2%、6年生1.7%、女では各々0.8%、1.1%で、6年生の方が少し高い傾向がみられた。

##### (3) 喫煙行動に関連する要因

表3に小学5-6年生を対象に、喫煙に関する知識、態度、家族の喫煙状況と児童の喫煙行動の関連についての集計結果を示した。

##### 1) 喫煙経験

###### ① 喫煙に関する知識、態度との関連

たばこをすうと元気になると思うと答えた者の割合は、喫煙経験のある児童では男4.6%、女3.4%であるのに対し、喫煙経験のない児童では男2.2%、女0.8%で、喫煙経験のある児童の方が男で2.1倍、女で4.3倍高かった。

大人になったらたばこをすいたいと思う、たばこをすうことはカッコいいと思うと答えた者の割合は、喫煙経験のある男子児童では各々30.1%、20.9%であるのに対し、喫煙経験のない男子児童では各々9.6%、10.2%で、喫煙経験のある男子児童の方が各々3.1倍、2.0倍高かった。また、喫煙経験のある女子児童では上記の割合は各々8.8%、11.4%であるのに対し、喫煙経験のない女子児童では各々2.1%、3.4%で、喫煙経験のある女子児童の方が各々4.2倍、3.4倍高かった。

大人がそばでたばこをすうことによくないと思わないと答えた者の割合は、喫煙経験のある児童では男31.4%、女25.3%であるのに対し、喫煙経験のない児童では男18.2%、女11.1%で、喫煙経験のある児童の方が男で1.7倍、女で2.3倍高かった。

###### ② 家族の喫煙状況との関連

家族の中に喫煙者がいる割合は、喫煙経験のある児童では男75.9%、女72.7%であるのに対し、喫煙経験のない児童では男63.8%、女65.9%で、喫煙経験のある児童の方が男で1.2倍、女で1.1倍高かった。

## 2) 最近の喫煙状況

### ①喫煙に関する知識、態度との関連

たばこをすうと元気になると思うと答えた者の割合は、最近喫煙している男子児童では15.4%であるのに対し、最近喫煙していない男子児童では2.4%で、最近喫煙している男子児童の方が6.4倍高かった。一方、女子児童では著差はみられなかった。

大人になったらたばこをすいたいと思う、たばこをすうことはカッコいいと思うと答えた者の割合は、最近喫煙している男子児童では各々41.0%、25.6%であるのに対し、最近喫煙していない男子児童では各々12.6%、11.8%で、最近喫煙している男子児童の方が各々3.3倍、2.2倍高かった。また、最近喫煙している女子児童では上記の割合は各々25.0%、12.5%であるのに対し、最近喫煙していない女子児童では各々2.2%、3.8%で、最近喫煙している女子児童の方が各々11.4倍、3.3倍高かった。

大人がそばでたばこをすうことにいやだと思わないと答えた者の割合は、最近喫煙している児童では男39.5%、女16.7%であるのに対し、最近喫煙していない児童では男20.1%、女12.0%で、最近喫煙している児童の方が男で2.0倍、女で1.4倍高かった。

### ②家族の喫煙状況との関連

家族の中に喫煙者がいる割合は、最近喫煙している児童では男89.7%、女79.2%であるのに対し、最近喫煙していない児童では男65.5%、女66.2%で、最近喫煙している児童の方が男で1.4倍、女で1.2倍高かった。

考察：喫煙の健康影響が近年の数多くの疫学的、実験的研究により明らかになるにつれて、喫煙対策が公衆衛生活動の重要課題となって

いる<sup>1)</sup>。喫煙習慣はほぼ未成年期のうちに確立し、一度身についた喫煙習慣を断つことは喫煙が依存症であること<sup>2)</sup>から考えても容易なことではない。そこで、喫煙習慣がまだ身につけていない小学生の時期から喫煙習慣の予防のための健康教育を行なうことが重要である。

青少年を対象とした喫煙防止教育のあり方を検討し、その教育プログラムを開発するにあたって、その喫煙の実態、喫煙に関する知識、態度等についての調査資料は不可欠である。今回われわれは、大阪府下の小学生を対象に自記式質問紙法による調査を実施し、小学生の喫煙に関する知識、態度、行動の実態と相互の関連性について調べ、興味ある知見を得た。

わが国では青少年の喫煙の実態に関する調査は、全国的な規模のものではなく、一部の地域で少数の中学校や高校校を対象に喫煙の実態を調べた研究の報告が数例あるにすぎない。そのなかで、比較的調査対象数が多い調査の成績によれば、中学3年生男子<sup>3)</sup>の喫煙経験者および現喫煙者の割合は各々52%、20%、同3年生女子では各々32%、10%と報告されている。また、高校3年生男子<sup>4)</sup>の現喫煙者の割合は50%、女子では15%と報告されている。これらの成績と成人を対象とした喫煙率調査の成績<sup>4)</sup>を比較すると、喫煙者の多くは未成年期に喫煙を開始していることが推察される。

今後、より全国的な規模の調査を実施することにより、青少年の喫煙の実態と喫煙行動の獲得の過程や自然史について明らかにし、それらの成果を青少年の喫煙防止教育開発の基礎資料として活用していく必要がある。

われわれは、現在、米国健康財団との共同研究の下で、小中高校生を対象とした健康の実態調査と、同財団で開発された小中学生を対象とした健康教育プログラム“KNOW YOUR BODY PROGRAM”<sup>5)</sup>の日本版を開発する計画を進めている<sup>6)</sup>。

文献：

- 1) 厚生省編：喫煙と健康－喫煙と健康問題に関する報告書，7-9.保健同人社，東京，1987
- 2) U.S. Department of Health and Human Services: The Health Consequences of Smoking, Nicotine Addiction, a report of the Surgeon General, 1988
- 3) 川畑徹朗，高橋浩之，黒羽弥生，他：中高校生の喫煙行動および喫煙に対する態度と知識，東京大学教育学部紀要，24：181-207，1984
- 4) 野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究 第1報 高校生の喫煙率及び喫煙状況について，学校保健研究，26：24-37，1989
- 5) マリオ・オーランディ：アメリカでの喫煙防止教育の取り組み，月刊生徒指導 19(3)：24-37，1989
- 6) マリオ・オーランディ，リザ・リーバマン，中村正和，他：日本における喫煙防止活動の方向性－KYBプログラムの日本への適用，学校保健研究，1989年8月号（掲載予定）

表1. 小学生の喫煙に対する知識、態度

(%)

性	男							女							
	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
回答数	1187	1232	1209	1259	1287	1316	7490	1113	1144	1159	1177	1311	1238	7142	
たばこをすうと元気になると思いますか															
はい	6.1	3.7	3.5	3.4	2.9	2.4	3.6	3.9	0.9	2.5	1.3	1.0	1.0	1.7	
いいえ	93.9	96.3	96.5	96.6	97.1	97.6	96.4	96.1	99.1	97.5	98.7	99.0	99.0	98.3	
大人になったらたばこをすいたいとおもいますか															
はい	22.7	20.6	17.8	14.6	13.0	13.0	17.1	5.9	3.6	3.3	3.1	2.3	2.6	3.4	
いいえ	77.3	79.4	82.2	85.4	87.0	87.0	82.9	94.1	96.4	96.7	96.9	97.7	97.4	96.6	
たばこをすうことはかっこいいと思いますか															
はい	-	-	-	-	11.8	12.2	12.0	-	-	-	-	3.2	4.6	3.9	
いいえ	-	-	-	-	88.2	87.8	88.0	-	-	-	-	96.8	95.4	96.1	
大人がそばでたばこをすったらいやだと思いますか															
はい	74.5	76.9	77.2	81.2	79.8	79.5	78.2	76.7	85.8	86.8	88.8	87.7	88.3	85.8	
いいえ	25.5	23.1	22.8	18.8	20.2	20.5	21.8	23.3	14.2	13.2	11.2	12.3	11.7	14.2	

(注) 上記各割合の算出にあたっては、回答不明のものは集計対象から除外した。

表2. 小学生の喫煙行動

回答数	喫煙経験のある者の割合 a (%)			最近喫煙している者の割合 b (%)			
	男	女	計	男	女	計	
小学3年	2368	14.3	7.3	10.9	-	-	-
4年	2436	13.8	6.3	10.2	-	-	-
5年	2598	13.9	5.3	9.5	1.2	0.8	1.0
6年	2554	19.2	6.6	13.2	1.7	1.1	1.5
計	9956	15.4	6.3	10.9	1.5	0.9	1.2

(注) a : 質問「今までにたばこを一口でもすったことがありますか」に対して「はい」と答えた者の割合

b : 質問「ここ1カ月のあいだに、1本以上たばこをすったことがありますか」に対して「はい」と答えた者の割合

上記両割合の算出にあたっては、回答不明の者は集計対象から除いた。

表3. 小学生の喫煙行動の関連要因(小学校5-6年生)

(%)

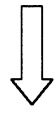
	喫煙経験				最近の喫煙状況			
	男		女		男		女	
	あり (N=431)	なし (N=2173)	あり (N=150)	なし (N=2379)	あり (N=39)	なし (N=2562)	あり (N=24)	なし (N=2507)
たばこをすうと元気になると思いますか								
はい	4.6	2.2	3.4	0.8	15.4	2.4	0.0	1.0
いいえ	95.4	97.8	96.6	99.2	84.6	97.6	100.0	99.0
大人になったらたばこをすいたいと思いますか								
はい	30.1	9.6	8.8	2.1	41.0	12.6	25.0	2.2
いいえ	69.9	90.4	91.2	97.9	59.0	87.4	75.0	97.8
たばこをすうことはカッコいいことと思いますか								
はい	20.9	10.2	11.4	3.4	25.6	11.8	12.5	3.8
いいえ	79.1	89.8	88.6	96.6	74.4	88.2	87.5	96.2
大人があなたのそばでたばこをすったらいやだと思いますか								
はい	68.6	81.8	74.7	88.9	60.5	79.9	83.3	88.0
いいえ	31.4	18.2	25.3	11.1	39.5	20.1	16.7	12.0
家族の中にたばこをすうひとがいますか								
はい	75.9	63.8	72.7	65.9	89.7	65.5	79.2	66.2
いいえ	24.1	36.2	27.3	34.1	10.3	34.5	20.8	33.8

(注) 上記各割合の算出にあたっては、回答不明のものは集計対象から除外した。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:昭和63年9月に大阪府下のS市内の公立小学校21校の児童15,216人を対象に、喫煙に関する知識、態度、行動などについて質問紙法による調査を行ない、以下の結果を得た。喫煙経験者の割合は、男子児童では3年生14.3%、4年生13.8%、5年生13.9%、6年生19.2%、女子児童では各々7.3%、6.3%、5.3%、6.6%であった。また、最近喫煙している者の割合は、男子児童では5年生1.2%、6年生1.7%、女子児童では各々0.8%、1.1%であった。小学5-6年生を対象に、児童の喫煙行動と喫煙に関する知識、態度、家族の喫煙状況との関連について調べたところ、喫煙経験を有する児童や最近喫煙している児童では、そうでない児童に比べて、1)喫煙の健康影響に対する認識が低い、2)たばこに対して関心が高く、たばこに対してかっこいいというイメージを持っている、3)大人の喫煙に対して寛容的な態度を示す、4)家族に喫煙者がいる割合が高い、という傾向が男女にほぼ共通してみられた。